

岩手県洋野町における増殖溝を
活用した藻場の創出・保全活動

令和6(2024)年度 活動報告及び 令和7(2025)年度 活動計画 (案)

洋野町ブルーカーボン増殖協議会

(1) 洋野町ブルーカーボン増殖協議会の活動について

【令和6年度活動報告：協議会関係】

①第1回協議会（10月23日）

- ・クレジットの販売状況について

販売数量 324.0 t -Co₂（販売開始からの計）

地方銀行との販売仲介業務連携

G Xリーグへの参加検討

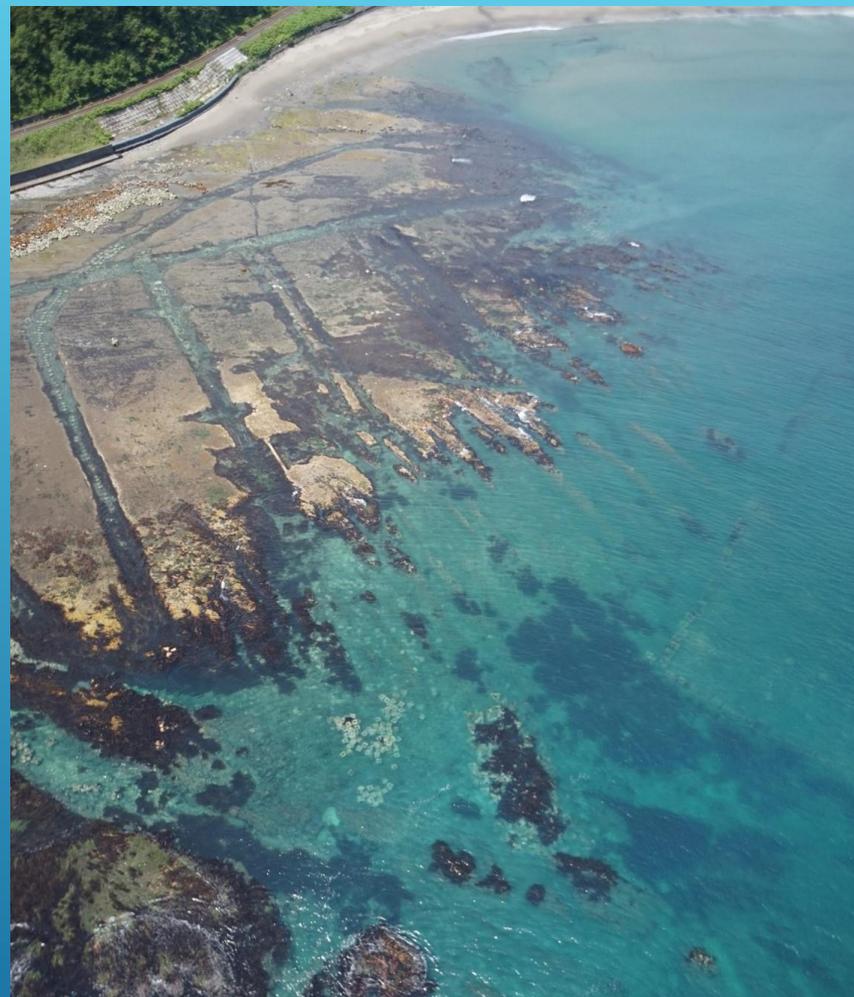
- ・今年度のクレジット申請について

藻場の状況により申請を検討

②第2回協議会（3月11日）

- ・今後の活動について

ブルーカーボン基金の活用



増殖溝の様子（岩手県洋野町沿岸部）

(2) 令和7年度の活動について

【主な活動（予定）】

①クレジット認証申請

- ・藻場の計測、データ解析
- ・クレジット認証申請

②クレジット販売

- ・公募販売（時期未定）
- ・相対取引の継続実施及び販売体制の強化

③藻場の創出・保全

- ・ブルーカーボン基金（※1）活用
- ・企業等との連携による藻場の創出及び関連技術開発
（ブロック設置、大型海藻の養殖など）

※1...令和5年9月造成。クレジット販売益を積み立て、藻場の創出・
保全活動に資する事業経費に充てるもの



ブルーカーボン基金を活用した
「ウニの森づくり植樹祭」の様子
（岩手県洋野町内 山林）



(3) その他_全国海の再生・ブルーインフラ賞（みなと総研賞） 受賞

岩手県洋野町における増殖溝を活用した藻場の創出・保全活動

プロジェクトの概要：
 洋野町は、岩手県の東北端に位置し青森県との県境に接する人口約1万5千人の町。三陸地方に見られるリアス式海岸と異なり、湾入部がない南北の海岸線約20kmに沿って、断続的に平坦な岩盤（種市層）が平均150m沖まで張り出しています。洋野町では、約50年前から、岩盤に溝を掘り、ウニやアワビ漁に利用してきました。それが増殖溝です。

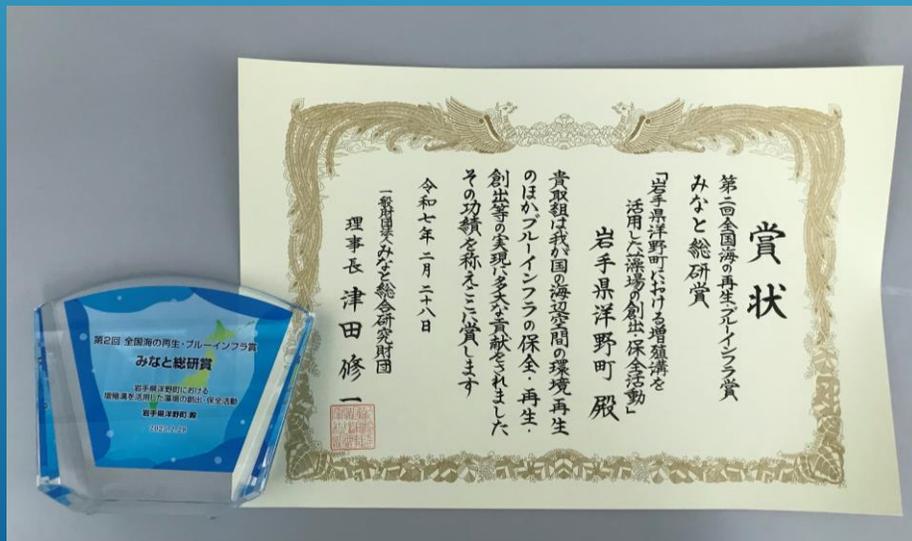
プロジェクトの特徴・PRポイント：
 増殖溝178本の総距離は17.5km、幅は約4m、深さは約1mにわたり、干潮時でも波力により新鮮な海水が流れ込む構造にすることで、ワカメや昆布などの大型の海藻が乾燥に耐え、生育しやすい環境を創り出しています。増殖溝やその周辺で育った海藻は、潮の干満により流れ藻として海に流出し、CO2を海底に固定することにも貢献してきました。また、増殖溝によって、身入りの良い高品質なキタムラサキウニが豊富に採れるようになり、ウニ漁と藻場の保全、即ち気候変動対策を両立させる持続可能な漁業が受け継がれてきました。今回のクレジット販売により得られた資金は、洋野町ブルーカーボン増殖協議会が中心となり、気候変動対策の更なる発展のために活用していきます。

機挿除（ツブ貝の駆除）

ウニの森づくり 植樹祭

増殖溝 遠景

洋野町ブルーカーボン増殖協議会



全国海の再生・ブルーインフラ賞

主催者：一般財団法人みなと総合研究財団

後援：国土交通省

授賞式：令和7年2月28日

（愛知県名古屋市「中電ホール」）

応募総数：全国から17件

受賞者：国土交通大臣賞 1団体

みなと総研賞 2団体